

所管事項調査に関する資料

目次

交流拠点施設整備の進捗状況について

- 1 MICE事業の検討状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1～3ページ
- 2 民間収益事業の進捗状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4～7ページ

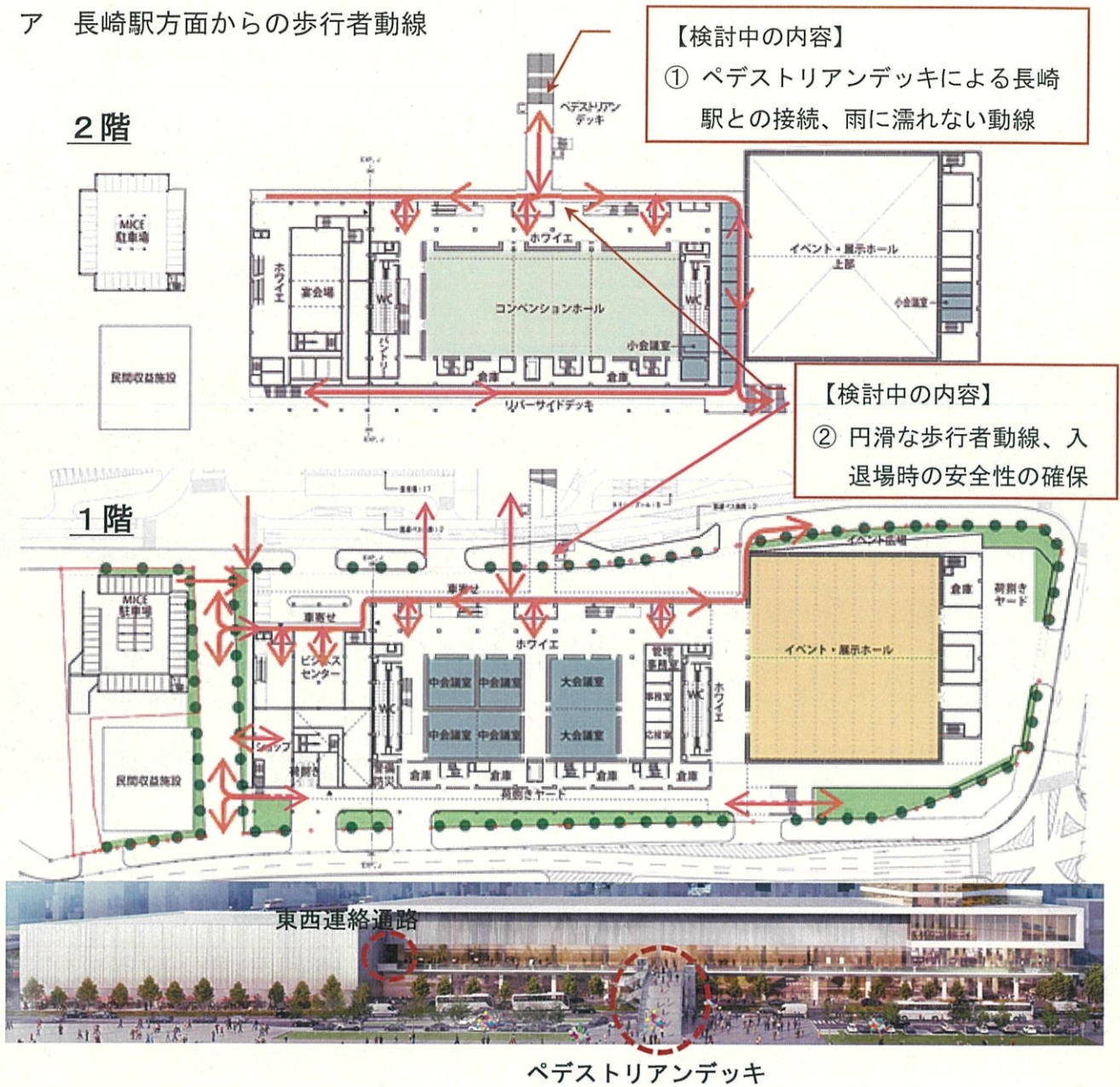
文化観光部

平成30年11月

1 MICE事業の検討状況

(1) 基本設計における検討事項

ア 長崎駅方面からの歩行者動線



イ 屋上のデザイン



ウ 夜景への貢献

【検討中の内容】

- ① 稲佐山等からの夜景への配慮（照明等）
- ② 新長崎駅舎等の駅周辺の夜景景観との調整



稲佐山方面からの眺望



施設近景の夜景
(提案時のイメージ)

エ 稲佐山の眺望

【検討中の内容】

- ① 地区計画等に定められた稲佐山への眺望を確保できるような形態、意匠



稲佐山

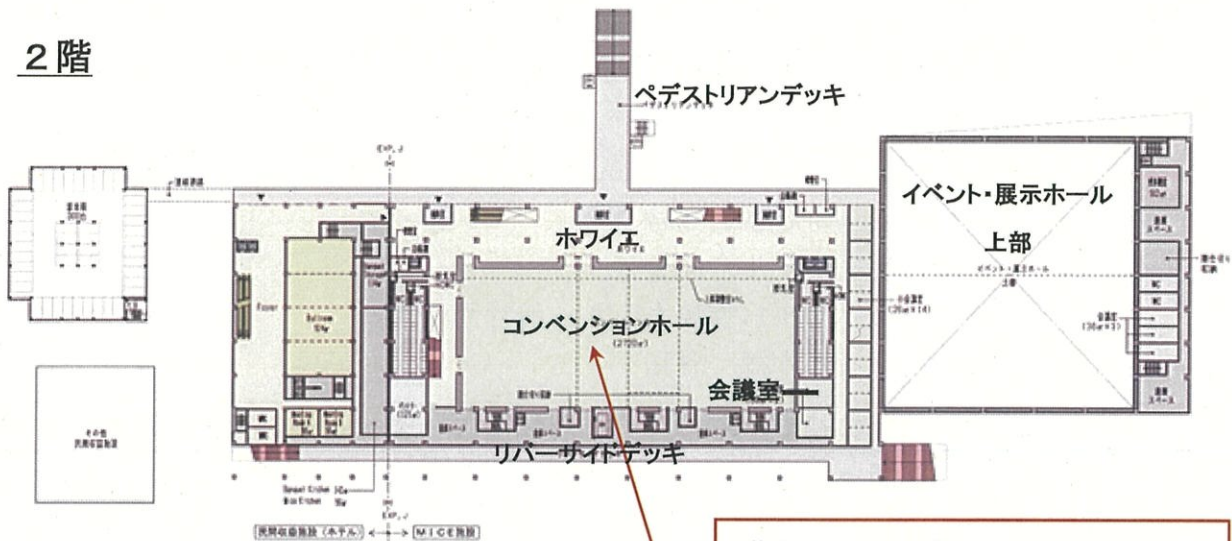
長崎駅西通り線から

施設内の通路やデッキから

歩行者専用道路から

オ 諸室の配置、来場者の溜りの空間

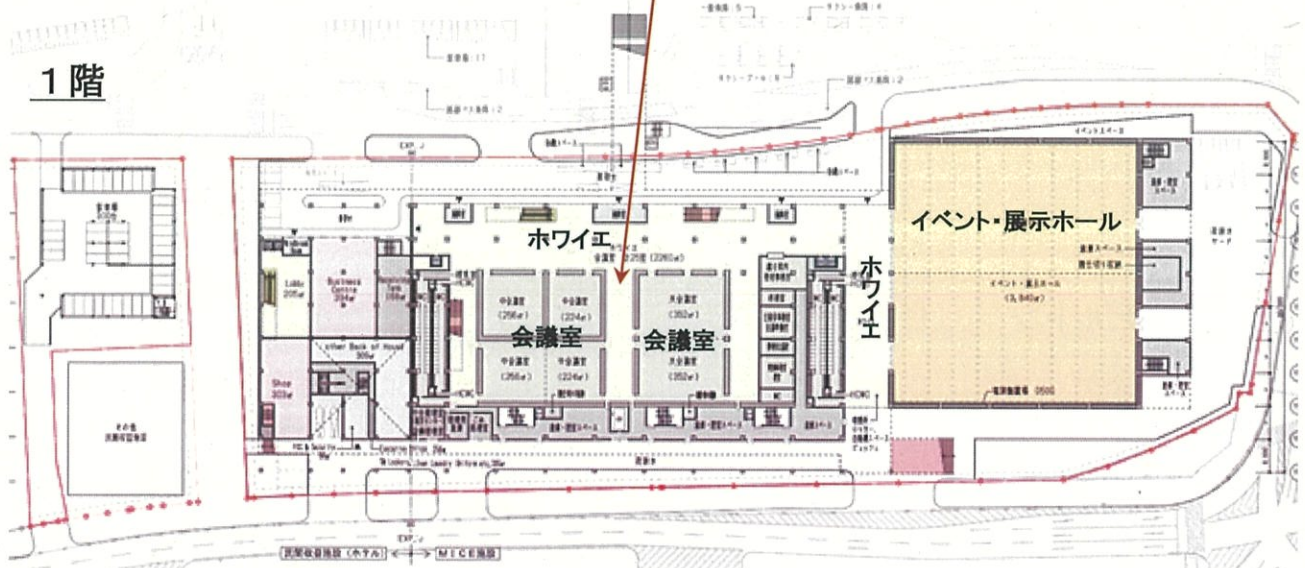
2階



【検討中の内容】

- ① より良い諸室やホワイエ等の溜り空間の配置

1階



(2) 今後の予定

- ～平成31年 7月 基本設計・実施設計、建築確認申請
- 平成31年 8月 建設工事着工
- 平成33年 8月 施設の引渡
- 平成33年 11月 施設の供用開始

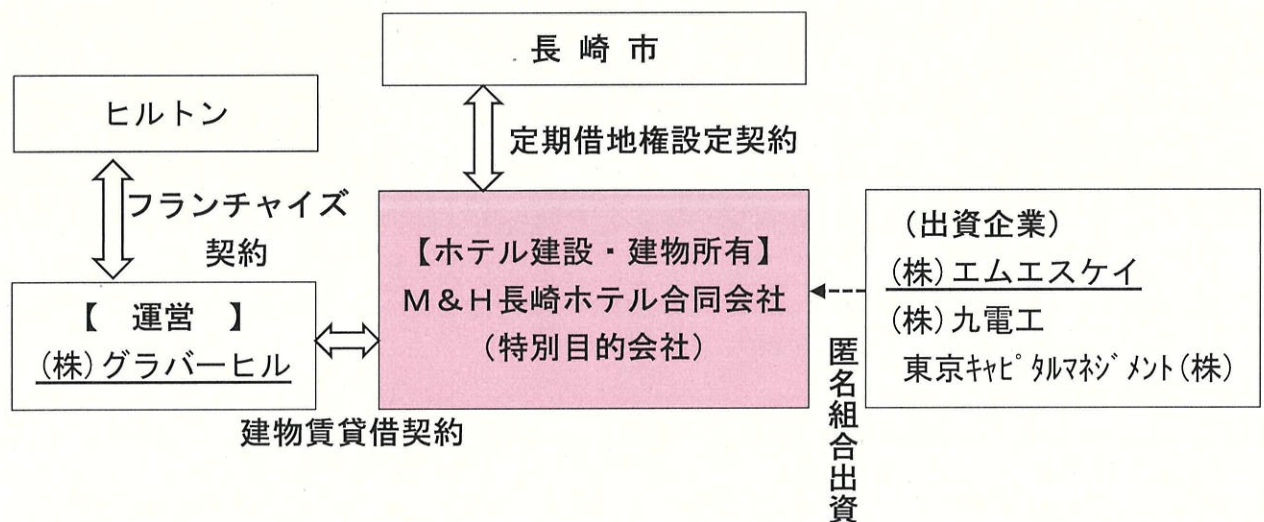
2 民間収益事業の進捗状況

(1) ホテル事業

ア 契約内容

件名	(仮称)長崎市交流拠点施設整備・運営事業 定期借地権設定契約
土地貸付料	43,592,580円/年 (貸付面積 3,411㎡)
相手方	長崎市五島町3番25号 M&H長崎ホテル合同会社 代表社員 M&H長崎ホテル一般社団法人 職務執行者 本郷 雅和
貸付期間	建設期間の初日から起算して解体撤去・現状回復の完了期限までの50年間
契約の方法	随意契約
事業方式	民間収益事業者が長崎市に借地料を支払ったうえで、独立採算事業として施設の設計、建設、運営・維持管理を行う。

イ 事業実施体制



※下線は市内業者

※M&H長崎ホテル合同会社 (本店 長崎市五島町3番25号)

(仮称)長崎市交流拠点施設整備・運営事業における民間収益事業のうち、ホテルの事業実施に関わるもの限る特別目的会社

ウ 事業の進捗状況

(ア) ヒルトンとのフランチャイズ契約締結

- ・ 契約締結日 平成30年10月23日
- ・ 契約相手方 株式会社 グラバーヒル
代表取締役社長 松藤 章喜



イメージ図

(イ) ホテル概要 (予定)

- ・ 名称 ヒルトン長崎
- ・ 延床面積 約20,300㎡
- ・ 建物規模 地上10階
- ・ 施設構成 客室(200室)、レストラン、チャペル、
フィットネスジム、バンケット等

(ウ) 今後のスケジュール (予定)

- ・ 平成30年10月 : 基本設計着手
- ・ 平成31年 8月 : 建設工事着工
- ・ 平成33年11月 : 営業開始

【参考】ヒルトンの概要

ヒルトンは、日本で最初に進出した外資系ホテルチェーンとして日本国内での歴史も非常に深く、認知度も非常に高いブランドホテルで、世界106か国に5,400軒以上の施設を展開している。

《ブランドポジショニング》

「ヒルトン長崎」はヒルトンブランドの中でも上位クラスのブランドで、ブランドポジショニングも「ラグジュアリー」に次ぐ「アッパー・アックスケール」に位置付けられている。

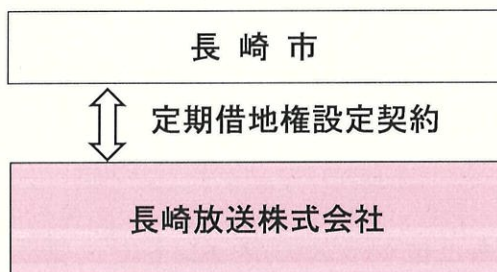


(2) その他民間収益事業

ア 契約内容

件名	(仮称)長崎市交流拠点施設整備・運営事業 定期借地権設定契約
土地賃付料	17,661,600円/年 (賃付面積 1,320㎡)
相手方	長崎市上町1番35号 長崎放送株式会社 代表取締役社長 東 晋
貸付期間	建設期間の初日から起算して解体撤去・現状回復の完了期限までの50年間
契約の方法	随意契約
事業方式	民間収益事業者が長崎市に借地料を支払ったうえで、独立採算事業として施設の設計、建設、運営・維持管理を行う。

イ 事業実施体制



ウ 事業の進捗状況

(ア) 長崎放送株式会社新社屋の概要（予定）

- ・延床面積 約9,200㎡
- ・建物規模 地上11階
- ・施設構成 テレビスタジオ、事務所等

(イ) 今後のスケジュール（予定）

- ・平成31年 1月 : 基本設計着手
- ・平成32年 1月 : 建設工事着工
- ・平成33年11月 : 営業開始

【参考】長崎放送株式会社の主な取組み概要（予定）

放送局としての機能をフルに活用し、長崎の様々な魅力、文化、平和等の情報発信の拠点として、地域の賑わいと活力を生み出す。

①歩行者専用道路で様々なイベントを展開

公共性の高いイベントについては、イベント主催者と連携して企画の告知・案内等をNBCのテレビ・ラジオを通じて行い、地域の人たちに広く知らせ、イベントの成功を支援する。



②放送中の様子を見られるスタジオを設置

正面の歩行者専用道路から放送中の様子を見られるよう設計する。ラジオ、テレビに出演するために来局するアーティストやタレントが、局舎前でミニコンサートやファンミーティングを実施するなど、放送局らしい賑わいを創出する。



③新社屋の壁面に大型ディスプレイを設置

様々な映像コンテンツを提供する。NBCテレビ「Nスタ」「あっぷる」、映像を同時配信しているNBCラジオ「あさかラ!」、長崎ケーブルメディア「なんでんカフェ」などの生放送番組で、「長崎のいま」を楽しめるようにする。

④大型4Kビジョンでの映像放映

長崎ならではの4K映像を送り出すため、「様々な長崎」を迫力ある4K映像で伝える。また、毎年8月9日には平和祈念式典会場からの映像をライブ配信し、様々な人たちへ長崎の平和への思いを伝えることに取り組む。

⑤新たなデジタル防災行政無線情報に対応

大型ビジョンを長崎市の防災無線を対応受信する仕様で設計し、大勢の人が集まる地域で「安心・安全」を速やかに発信する。情報を音声だけでなく、文字でも発信することで聴覚障害の方にも情報を正しく伝える。また、通常の屋外ディスプレイと異なり、72時間の非常電源装置を配置、停電時の情報配信に対応し、安全安心を支える。